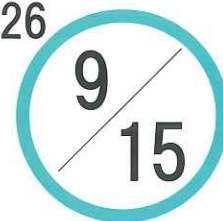


教育PRO

EDUCATION PRO

2026



【特集】第25回教師力向上研究会 報告

鼎談：新学習指導要領が求める国語の授業
～すべての子どもに確かな言葉の力を～

大阪大谷大学 今宮信吾 神戸常盤大学 山下敦子
(コーディネーター) 森ノ宮医療大学 阿部秀高

教育プロは
こころの教育
モラルの教育
創造性の教育を
問い求めます。

学校訪問

私立通信制版「学びの多様化学校」をめざして
～合理的配慮の実践～

元YMCA学院高校 校長 鍛冶田千文

寄稿

自己肯定感の行方 ― ほどよさへの転回 ―

関西福祉科学大学教育学部 築地 典絵



No.8

HPアドレス <http://www.erp-kyoiku.com>
年間購読料 18,480円 (税込)

黒板アート甲子園®2025 優秀賞受賞作品「虹の向こうに」



好文学園女子高等学校

KOUBUN GAKUEN GIRLS' HIGH SCHOOL

【学校訪問】

私立通信制版「学びの多様化学校」をめざして

～ 合理的配慮の実践 ～

元YMCA学院高校 校長 鍛冶田千文



合理的配慮の背景と本校の理念

2006年、国連で「障害者権利条約」が採択され、我が国でも2013年に「障害者差別解消法」が制定、2014年に条約が批准されました。2021年の法改正では私立学校においても合理的配慮の提供が義務化され、YMCA学院高校では2019年に特別支援教育コーディネーター（以下特支Co）を中心に体制整備に着手しました。

本校の母体であるYMCAは、1844年にロンドンで設立された社会教育団体です。120の国と地域で、精神・知性・身体の調和がとれた人の育成をしてきました。キリスト教主義学校として「平和を創る人」の輩出をめざす本校では、「命の尊厳」を価値基盤としています。能力や成果の有無(Doing)ではなく、「あなたの存在そのものに価値がある」という存在価値(Being)を何よりも尊重しています。

本校における合理的配慮のプロセス

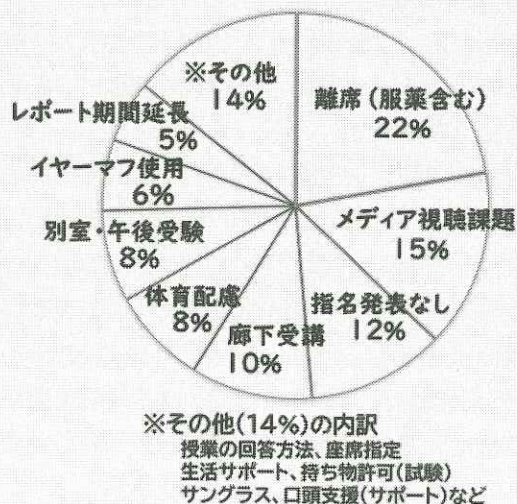
YMCA学院高校は広域通信制高校で、本校（約520名）と連携校（約250名）で約770名の生徒が在籍しています。誰もが安心・安全に学べることを願って合理的配慮を推進してきました。合理的配慮は、合格オリエンテーション時の個別相談会から始まります。配慮一覧を提示した上で希望を聞き、生徒支援部会で審議、本人・保護者との面談を経て、教職員間で共有・実践します。最も重要なのは「本人の意思」です。そのため半期ごとに担任や特支Coが丁寧に面談を行います。合理的配慮の実践において不可欠な視点は、①本人がどのような状態にあるか、②本人が内容に納得できているか、③本人がそれを望んでいるか、④卒業後の自立（将来の生活）を見据えた内容になっているか、⑤学校側の実施可能な範囲（過度の負担とならない）であるか、の5点です。

合理的配慮の内容と生徒・教員の変化

本校の今年度の合理的配慮申請者は103名で、生徒の約20%です。申請理由は、自閉スペクトラム症や学習障害等の発達障害が58%、適応障害や対人恐怖などの精神的不安が22%、起立性調節障害(OD)や過敏性腸症候群などの健康上の理由が20%となっています。

スクーリング（授業）場面での合理的配慮は80%、レポート作成では5.5%、テスト受験14.5%です。配慮内容は服薬等に伴う離席の許可、メディア視聴課題、指名・発言の回避、廊下での受講、体育実技の配慮、テストの別室・午後受験など多岐にわたります（図参照）。

【配慮の内容】



生徒の過去のアンケート調査では、「配慮により困り感が解消した」との回答が74%となりました。（「どちらとも言えない」は17%）。具体的には「不安が減った」「学校生活に前向きになり、学習意欲が向上した」などがあり自己理解の深まりと自己成長を実感する記述が見られます。また、制服の着用が自由であることなど、一律の校則に縛られない校風自体が配慮と同等の効果を果たし、本校へ入学したことで困り感が解消されたケースもあります。

それまで一部の教員の善意に依存しがちであった対応が、学校全体の組織的な取組にしたことで、生徒・保護者への支援の質の向上と情報が共有できるようになりました。当初は「特別扱いではないか」と言う教員の意識も「生徒本来の力を引き出す合理的配慮」へと変化していき、単位修得を諦めずに卒業する生徒が増えました。

一方で個別のニーズが多様化し、試験時の運営など、教員の負担が増加したことや非常勤講師との情報共有の難しさもあり「指名回避を申請していたのに指名された」などの苦言が生じることもあります。

ユニバーサルデザイン (UD) の推進

個別配慮の課題を解決し、包括的な安心感を提供するため、本校では UD も積極的に進めています。熱中症対策や体調管理のための授業中の水分補給は、当初の合理的配慮から誰もが可能となりました。外国ルーツの生徒に配慮した「やさしい日本語ガイドライン」の活用をはじめ、UD フォントの採用、静寂な環境を好む生徒のための「サイレントフロア」や「サイレントランチルーム」の設置なども実施しています。

OD や健康不安を抱える生徒・保護者のために関西医科大学と提携しています。親子の勉強会やピアサポートグループ、医療スタッフが帯同する「ヘルスケアキャンプ」などを実施。中でもオンラインエクササイズでは、下肢筋力 (171% 向上) や歩数 (235% 向上) の大幅な改善が見られ (2025 年)、自己効力感の向上 (SPSS Ver.29 による心理調査) という成果が出ています。(本校 HP 参照)

このような実践を可能にした背景には、公認心理師、特別支援教育士、キャリアコンサルタントといった専門家や SSW の常勤化、スーパーバイザーによる助言体制、そして教職員の「配慮は特定の生徒のためだけでなく、全校生徒に必要なである」という共通理解と生徒一人ひとりに寄り沿う思いがあるからです。

私立通信制版「学びの多様化学校」へ

京都大学の塩瀬隆之教授は著書に「ユニバーサルデザインは多くの人の公平や平等の実現をめざすことから平均的な児童生徒像に向かってデザインする必要があります。この平均的な児童生徒像にぴったりの学校デザインが完成してしまうと、そこにあて

はまらないことに窮屈さを感じる生徒も出てきます」「インクルーシブデザインは真逆のアプローチで、最初に『特定の人』が抱える課題解決を起点とします」とあります。振り返れば私たちもインクルーシブデザインから始まったと気がつかされました。

合理的な配慮 (Reasonable Accommodation) は、「配慮してあげる」という恩恵的な提供ではなく、「対話的な調整」です。障害を個人の心身の問題と捉える「医療モデル」から、社会のありかたや環境の不備に問題があるとする「社会モデル」への転換こそが、社会や教育現場に求められています。

合理的配慮を申請する行為は、見方を変えれば「自分はこれができない」と表明することでもあり、生徒にスティグマ (烙印) や無力感を与えてしまうリスクを孕んでいます。私たちが今後めざすのは、発想を転換し、合理的配慮を必要としない「誰もが学び方を自由に選択できる学校」です。

本校では、時間割の自由な選択、自分のペースにあわせたコース選択、通学とメディア視聴課題の柔軟な組み合わせ、試験は時間や場所を選択、標準服・私服・体育着の自由化、行事は希望制など、多様な選択肢があり、生徒たちは日常的に「選択」をしています。生徒が自らの意思で学び方を選び、主役となって歩める学校、そこに伴走する教職員、それが本校のめざす「私立通信制版「学びの多様化学校」」、「関わる学校」の姿です。生徒の声に耳を傾けながら、通信制高校の新しいスタイル・デザインを創造していきたいと思っています。



屋上での生徒たち

【プロフィール】鍛冶田千文 (かじた・ちふみ)

学校法人大阪 YMCA 理事・教育顧問、特別支援教育士、大阪府私学審議員、元大阪 YMCA 国際専門学校校長、元文部科学省「新しい時代の高等学校教育の在り方を考えるワーキング」委員